

第5問

次の〔資料〕はニッショウ工業の各製品の財務データを示している。〔資料〕にもとづいて、下記の問に答えなさい。なお、売上高、費用、利益などの金額単位は円、販売量の単位は個である。

〔資料〕

	A 品（次期）	B 品（次期）
売上高	1,000,000	1,000,000
変動費	500,000	(③)
貢献利益	(①)	800,000
固定費	250,000	(④)
営業利益	(②)	400,000

	C 品（当期）	C 品（次期）
販売単価	20	(⑦)
単位変動費	15	15
販売量	(⑤)	10,000
貢献利益	100,000	50,000
固定費	(⑥)	80,000
営業利益	20,000	(⑧)

問1 表の空欄①から⑧に入る数値を計算しなさい。マイナスとなる場合は「－」を付すこと。

問2 CVP分析に関する以下の記述のうち最も不適切なものを1つ選びなさい。

- ア. A品、B品の損益分岐点売上高はともに500,000円である。
- イ. 同じ損益分岐点売上高を持つ2つの製品がある場合、固定費の金額が大きい方がハイリスク・ハイリターンである。
- ウ. 損益分岐点売上高が高いほど、企業の利益も維持しやすい。
- エ. C品は次期に販売量が減少する影響で赤字に陥る可能性があるため何らかの利益改善策が必要となる。